

学生海外調査研究	
メキシコ人高校生の中退に影響を与える家庭要因－家庭環境・親子関係の検討から－	
加藤 由里子	人間発達科学専攻
期間	2013 年 8 月 7 日 ～ 2013 年 8 月 21 日
場所	メキシコ国メキシコ市・プエブラ市
施設	メキシコ大学院大学、メキシコ国立教育大学、メキシコ地理統計局、メキシコ市・プエブラ市の各 NGO

内容報告

1. 本海外調査研究の必要性と論文における位置づけ

本海外調査研究の目的は、①メキシコにおける学校中退の家庭要因（家庭環境や夫婦・親子関係など）、②NGO は子どもたちやその家族に対してどのような支援を行い中退削減につなげているか、の 2 点について、資料・文献および統計データの収集、NGO へのインタビューを通して詳しく調査し、メキシコの学校中退を減少させる方策について検討することである。また、本調査の実施を通して、今後の研究のフィールド確保も視野に入れている。この調査は、博士論文において、学校中退の家庭要因が生じる背景を明らかにし、今後の研究の方向性を見極める最も基礎的な部分に位置するものである。

メキシコでは、初等教育の就学率が 98%（UNESCO, 2012）に達し、EFA（万人のための教育）へ向けた国際的な 6 つの目標の一つである初等教育の普遍化をほぼ達成している。また、前期中等教育についても 79.8%の純就学率を達成しており、少しずつ義務教育の就学率が伸びている状況である。しかし、後期中等教育については、学校への登録率は 60.3%となっているが、純就学率を見ると 51.9%しかなく、この段階での中退率は前期中等教育 5.6%に対して 14.9%となっており、非常に深刻な状況を表わしている（INEE, 2013）。

メキシコの公教育省（以下 SEP）は、こういった状況を憂慮して、2012 年に初めて全国の 14 歳から 25 歳までの若者とその両親を対象にした学校中退、または学校に行かなかった主な理由を尋ねるアンケート調査を実施した（SEP, 2012）。アンケートでは、主な中退理由を複数回答できるようにになっているが、その結果、男女とも約半数が「家庭の経済的欠乏」によって学校を中退していることが分かった。しかし、次いで多かったのは、男性が「勉強するより仕事の方が大切だと思った」、女性が「妊娠した／妊娠させられた／子どもをもった」という理由であり、それぞれ約 2 割を占めていた。この結果は、学校中退に家庭的な要因が大きく影響していることを示している。しかし、このアンケートの実施報告書からは、こういった理由が生じる背景については詳しく説明されておらず、学校中退がどのようなメカニズムで引き起こされているのか明らかにされていない。学校中退の削減を考えるのであれば、この部分を明らかにしないと、根本的な削減には至らない。また、家庭の経済的欠乏は、子どもたちが働いたり妊娠したりすることで、学業が継続できず、学歴獲得の過程から逸脱する結果となり、さらに助長される可能性がある。

そこで、主に都市部の貧困地域で子どもたちやその両親を支援している NGO のスタッフに、学校中退の家庭要因、および、学校中退の削減に成果を出している NGO の支援プログラムの内容と支援の観点についてインタビュー調査を行った。調査に際して、国際的な女性リーダーの育成を目的としている「学生海外派遣」プログラムの助成を受け、2 週間の予定でメキシコ市とプエブラ市を訪問した。

2. 調査内容

2-1 資料・統計データの収集、研究者との意見交流

資料・文献については、メキシコ大学院大学（El Colegio de México）、および、メキシコ国立教育大学（La Universidad Pedagógica Nacional）の附属図書館を訪問し収集した。特に、日本では入手しにくいメキシコ国内における学校中退に関する研究の動向やこれまでの取り組み、教育改革などについて書かれた論文や文献を中心に収集した。また、前者では、スペイン征服期である 17 世紀後半か

ら 18 世紀前半における社会体制と家族が置かれた状況についての論文があったので、複写した。こういった資料は、メキシコのこれまでの学校教育に関する取り組みや、現在のメキシコの家社会や家族の構造を読み解くうえで重要な基礎資料となる。さらに、メキシコ市内の書店にて、メキシコに関する教育システム、教育と社会変動、貧困・社会問題、家庭内の親子関係やしつけ、男女観などの文献を収集した。これらは、学校中退の家庭要因が生じる背景を知るために必要な文献である。日本では、こういった専門的な資料は、20 年ほど前に出版されたものが数冊程度しかなく、最新のメキシコ人の家族関係や社会背景を知るのに役立つものである。

統計データについては、メキシコ国立地理統計局（以下 INEGI）を訪れ、主に INEGI のホームページ上に公開されていない家族に関するデータについて、担当者と相談しながら一つずつ整理し収集していった。メキシコでは、女性の解放運動が興った 1970 年代に大きな家族構造の変化があり、その前後における家族世帯数の変遷、出生率の変化、家長の性別、就業者の割合などについてデータを調べたが、センサスや書庫を見ても、1980 年代以前の家族に関する詳しいデータは残念ながら手に入らなかった。しかし、1990 年代の家族構造や家庭の経済状況や教育レベルに関する文献、および、メキシコ市（2011 年）とプエブラ市（2005 年）の統計年間を入手することができた。これらは、ホームページ上にある最近のデータとともに、後ほど論文において、メキシコ社会の家族構造の変遷と学校中退の家庭要因を考察するうえで貴重な資料となるものである。

さらに、メキシコ大学院大学に所属している筆者の知り合いの研究者の紹介で、メキシコの公教育省の基礎教育（初等教育・中等教育）課に所属し、メキシコの移民問題の専門家でもある Z 氏に、メキシコ教育システム、および、学校の中退要因についての概要を聞くことができた。Z 氏は、学校中退の定義について、学校による児童・生徒の排除なのか、児童・生徒の学校からの離脱なのかといった様々な考え方があること、学校中退には大きく分けて社会的な問題と学校における問題があることについて言及した。家庭要因は社会的な問題に含まれる。また、Z 氏は、先述したメキシコ公教育省によるアンケート項目には無いが、家族が米国へ働くために移住するのに伴って、子どもたちも中学校を卒業すると移住してしまうことも大きな学校中退の要因であると指摘した。

2-2 NGO スタッフへのインタビュー

2-2-1 訪問した NGO の概要

今回は、メキシコ市にある 4 件の NGO と、その近郊のプエブラ市にある 1 件の NGO に、半構造化インタビューを行った。インタビュー時間はそれぞれ約 1 時間半で、内容は使用目的や個人情報の公開の可否を確認したうえで録音した。まずは、各 NGO の概要とインタビュー対象者について述べる。なお、NGO 名は①から⑤の番号で示し、インタビュー対象者はアルファベットの一文字で表している。

NGO①は、メキシコ市内の特に貧困層の多い 3 つの地区にセンターを持ち、働いている 5 歳から 17 歳までの子どもや若者、その両親に対して人権保護の観点から支援活動を行っている。筆者はその中の一つのセンターを訪問し、この NGO の代表者である A 氏と、以前ここでボランティアとして働いていた職歴 6 年目のエドゥケーター（路上で働いている子どもたちの能力開発のためにセンターに来るよう誘いかけるスタッフ）の一人である B 氏にインタビューを行った。この地域の特徴は、離婚したり別居したりして一人で子どもを育てている母親が多いことである。このセンターは、デイ・ケア・センターとなっており、子どもたちやその両親がここで支援プログラムに参加した後、各家庭に帰るという通所型である。職員は全体で約 30 名在籍する大きな NGO である。ここでは、参加者たちが遊びや作業などの活動を通して、「教育」、「健康」、「市民性と権利」、「男女の対等性」、「社会経済」、「コミュニケーション」、「社会保障」の 7 つのテーマを基に学ぶようになっている。

NGO②は、設立後の約 30 年間で、40 以上の支援プロジェクトをメキシコ国内だけでなくラテンアメリカを中心に、アメリカ合衆国やウズベキスタンなどにおいて実施してきた NGO である。この NGO は、基本的に「教育」、「健康」、「市民性の涵養」、「生産活動」の 4 領域において活動し、子どもやその両親に対して日常生活や学校生活に必要な能力を開発し、社会心理的な障害（恐怖、罪の意識、先入観、嫉妬など）を取り除きながら、参加者の自尊心を高め、判断力や自己決定力、社会における責任感などをもてるように支援している。また、政府と連携して、コミュニケーション、性、麻薬の予防、責任、市民性とモラルなどのテーマを教える教材を開発し、公立学校の先生に協力してもらいメキシコ全国の学校で教えている。このプログラムを行った農村部のチアパス州とアグアスカリエンテス州では、ホームページにも記載されているが、小学校と中学校において、1 年で 24%も中退率が下がったという報告がある。ここでは、本 NGO の創設者であり代表でもある C 氏にインタビューを行った。

NGO③は、メキシコ市内の貧しい地区のコミュニティー・センターを拠点に活動を行っている NGO で、スタッフは代表の D 氏 1 名である。メキシコ、および、カリブ海諸国において、教育、健康、ス

スポーツ、文化、社会公正、農業、環境の分野で若者たちの能力開発を行い、社会参加の促進を図っている。事務所のあるコミュニティ・センター内においては、奨学金の支給、教育相談、パソコン講習、英語・フランス語の語学講習などを行っている。また、国際的には自然災害支援、および、NGO の後援者の募集や募金活動の一環としてのイベント企画・開催なども他の団体と協力しながら行っている。この NGO は、若者たちの能力開発を通して、人々の判断力や、自己決定力を高め、生活するうえで障害となるものを取り除き、危険な状況を抜け出すことを目的としている。本 NGO の代表である D 氏に聞き取りを行った。

NGO④は、カトリックの修道会が母体となっている NGO で、主な活動内容は、学校に行くことができなかったり、学業を継続できなかった貧しい若者や成人のために、公教育省の認可の下、「オープン・スクール」と呼ばれる単位制の学校卒業資格獲得システムの運営を通して教育機会を提供したり、よりよい職業に就くための職業訓練（コンピューター・英語・料理・縫製など）や手工芸（アクセサリ作り、刺繍など）の技術を習得する機会を提供することである。これらの講師は、ほとんどがボランティアで、メキシコの大学生に義務付けられている社会サービスの一環として行われているボランティア活動の受け入れ機関にもなっている。また、心理的な問題を抱えている参加者のために、カウンセリングも行っている。ここでは、正規のスタッフとして働いている職歴 3 年目のオープン・スクールの担当者である E 氏と、社会サービス・ボランティア事業の担当者で職歴 6 ヶ月の F 氏に話を聞くことができた。

最後に、NGO⑤は、プエブラ市内にあり、NGO④とは異なるカトリックの修道会が母体となっている NGO である。この NGO は、プエブラ市内で大きくレストラン事業を展開している企業の一室に事務所があり、この企業の役員が NGO の代表を務めており、企業と NGO との協働体制が確立している。例えば、企業側が NGO に活動資金を提供したり、企業が経営するレストランに NGO が開発した商品を置き、NGO の運営資金獲得に協力したり、支援対象地区の子どもたちのために無料定期健診を行う医師を紹介している。この NGO に正規で働いているスタッフは、筆者のインタビュー対象者でコーディネーターをしている G 氏のみで、その他の代表、秘書、事務員といった役職はすべてボランティアで行われている。コーディネーターの業務は、主にプエブラ市内の貧しい地区において、一般の人々やイベント開催などを通して資金を調達し、この修道会が運営している学校に子どもたちが通えるようにするために奨学金を支給することである。ここでは、この修道会が運営している中学校も見学させてもらった。

2-2-2 各 NGO の支援対象地域に見られる家庭要因

インタビューの結果からは以下のような家庭要因が見出された。以下、その内容について一つずつ見ていく。

NGO①の代表である A 氏は、「彼らの家族はとても貧しく、高校に払うお金がない。」とまず、金銭的な問題があることを指摘していた。また、「家族が教育にあまり注意を払わないことです。彼らは子どもたちが学校よりも働くことを望んでいます。つまり、母親や父親が子どもたちへの教育を重視し、勉強を手伝うように働きかけをすることがとても大変です。」と述べていた。さらに、「子どもたちは多くの問題を抱えていて、時々家族に暴力をふるわれたり、性的虐待や虐待を受けて」いること、「養育方法や養育の習慣が殴られたり罰を与えられたりする。それが習慣になっていると思う。」と、家庭内における暴力が習慣化していることについて言及していた。

NGO①のエducatorをしている B 氏も、「父親が言った通りのことをしないとはいけません。ですので、時々母親は子どもと良い関係を築くことが難しいのです。」と、母親が置かれている状況について語り、また、この地域の特徴として「一般的に夜などに有機溶剤やアルコールの摂取が多く見られます。・・・(中略)・・・少年と同じように成人に対する支援がなく、能力を発達させる機会もない。」と述べていた。その他、「子どもたちを学校に送る責任があるのは母親です。それはメキシコの良くない考え方です。例えば、[父親は]『あなたがやりなさい。自分は知りません。』と言う。ですので、父親が子どもを養育する責任から逃れるのはとても簡単です。」と、教育に対する親の責任に対してこういった固定観念が根付いていることも説明してくれた。さらに、「パパやママが仕事で長時間働いてとても疲れていること・・・(中略)・・・また、子どもが多くすべての子どもと十分話すことができません。また両親も子どもたちと話す能力を持ち合わせていません。」と、家庭における子どもの数の多さとコミュニケーションの不足について言及していた。そして、少女の妊娠については、「子どもたちはセックスや妊娠予防に関する知識を持っているように思われます。でも、家族の中での問題で、パパやママが子どもの言うことを聞かなかったり、・・・(中略)・・・学校で何があり、何を感じ、何をしたいと思っているのかに注意を払わなかったりします。それが、他ののはけ口を探し、誰か話を聞いてくれる人を探したりすることにつながります。・・・(中略)・・・とても簡単に他の人と親密な関係になり、家族の活動から出ていくことになります。」と少女の早熟な妊娠に至る理由を説明してくれた。

NGO②の代表であるC氏も、家庭内のしつけの在り方について「とても命令的で、他の人の言うことを良く聞くように、従うようにし、個人にとって必要なことや自由に対してほとんど尊重がありません。」と述べていた。そして、学校中退の家庭要因について「もっと経済的な問題です。それと、価値観の欠如です。でも、もし子どもたちが学校に行きたいと思っても、勉強したいと思っても、人生を良くしたいと思っても、現実には両親が貧しくて学校に行けない、学校で差別される、学校へ行っても意味がないということです。」と、家庭における金銭と価値観の欠如、また学校の問題についてもふれていた。また、「友達や周りのみんなと同じようにする社会的な圧力があります。みんなと同じようにしないといけない社会的圧力です。」と、みんな学校に行くけど、それは社会的圧力でやっている。」と、学校に行く意味を理解しないまま通っている現状についても語っていた。

NGO③の代表であるD氏については、D氏の来所者の面談や書類作成など通常の業務を行いながらのインタビューとなり、詳しい話を聞くことはできなかったが、いくつか述べてくださったところによると、学校中退の削減にはもっと子どもたちのために直接的な能力開発の支援が必要であること、家庭内においては、母親と子どものコミュニケーション不足が見られるということである。それは、子どもの数が多すぎること、また、母親が子どもとのコミュニケーションの取り方がわからないことが主な原因であるとのことであった。来所者の一人にも話を聞くことができたが、その方も「第一にコミュニケーションの不足です。負のサイクルのようなものです。教育がなく、知識がないので、すぐに麻薬に手をだしたり、望まない妊娠をしたりします。」と家庭内の問題について述べていた。

NGO④でも、オープン・スクールの担当者であるE氏が「両親が彼らを学校に行かせるお金がないことが多いです。そして彼らは働いて家庭を支えないといけません。」と家庭における経済的な問題が大きいことを挙げていた。また、社会サービス・ボランティア担当のF氏は「ここに来るのは多くが女性です。というのも彼女たちは文化的に教育を受ける機会をもっていません。・・・(中略)・・・彼女たちはそういった考え方をもっている小さな集落から都市部に來ます。彼女が教育をもつのは難しいです。というのも父親は子どもや女性に結婚したあと家事をうまくできることを求めます。ですので、経済的な援助をしてくれる人がいません。」と、都市部に移住してきた女性が抱える問題について言及していた。さらに、E氏は「両親が学校に行き続けられるように支援しないという問題があります。学校に行く時間があれば、他のことをしろと言います。時間の無駄だと考えています。家族内での考え方の問題です。」と述べ、両親の教育に対する考え方についてもふれていた。

NGO⑤の奨学金コーディネーターであるG氏は、「ここメキシコでは、両親が子どもたちが良い生活ができるように勉強させようと思ったら、できないことはありません。」と、両親は「私たちの説得」を受け入れます。なぜなら、もし乗り越えようと思ったら、もし勉強しようと思ったら、もし支援しようと思ったら、それはできる。」と述べたうえで、「確かに、家族が子どもたちを学校に行かせてやれない要因もあります。例えば、学費は払っているが、道のりがとても遠く、バス代等の交通費がとてもかかる。ですので、家庭的要因は第一にお金です。」と最も大きな家庭要因は家庭の金銭的な不足であることに言及していた。また、「家族はコミュニティーや村でお金がないので、多くの父親がアメリカへ働きに行きます。でも、多くの場合なかなか満足な収入が得られません。でも、ここでは子どもはお父さんが不在のまま残されます。また、多くの場合、母親もいません。」と移住の多い状況について語っていた。さらに、「・・・(前略) 子どもたちを隣近所の人や、親戚や、自分の兄弟に預けます。・・・(中略)・・・ですので、これらの人々が子どもたちを養育する責任を負い、この人たちもお金がなくなります。・・・(中略)・・・彼らはお金を手に入れるために子どもたちを働かせます。」と、移住によってコミュニティーがより貧しくなり、子どもたちが学校に行けなくなっている現状についても話してくれた。

以上、ここまでは、インタビュー対象者が言及していた学校中退の多い地域の家庭環境や親子関係について述べた。次項では、これらの家庭要因に対する各NGOの支援内容と観点について検討する。

2-2-3 学校中退を減らすためのNGOの支援内容と観点

まず、インタビュー対象者が言及していた家庭環境や夫婦・親子関係についてのキーワードを挙げ整理していくと、家庭内部の要因と社会的な要因とに大別できる。家庭内部の要因としては、「金銭的な不足」、「両親の教育より仕事を重視する考え方」、「暴力」、「強制的なしつけ」、「父親の権威」、「長時間労働」、「麻薬やアルコールの摂取」、「子どもの数の多さ」、「コミュニケーション不足」、「少女の早熟な妊娠」、「価値観の欠如」、「米国への移住」が挙げられる。そして、社会的な要因としては、「地域で能力開発ができる場所の不足」、「文化的な性別役割観念」、「社会的圧力」がある。しかし、家庭内部の要因は、それぞれ相互に結び付き、家庭の状況をより悪化させていると考えられる。また、社会的な要因も、家庭内の各個人の考え方に影響を与え、家庭内部の要因と密接に結びついていると言える。

こういった状況に対して、ほとんどのNGOは共通して、家庭の金銭的な不足を補い、子どもを学

校に行かせるための奨学金プログラムを組み、子どもたちが学校へ通学する際にかかる交通費や食費、教材費などに充てられるようにしている。また、家庭内で暴力を受けた子どもや母親のために、カウンセラーによる専門的なカウンセリングを行うチームも持っている。

しかし、これだけではなく、さらに各 NGO は独自の観点から能力開発プログラムを組んでいる。特に規模が大きくスタッフもたくさん働いている NGO①と NGO②は、総合的な能力開発プログラムを有している。また、中退の削減についても成果をあげており、これらの NGO の取り組みは今後の中退削減の方策を考えるうえで大変参考になる。

例えば、NGO①は、代表の A 氏の言う「一人一人の子どもたちが勉強を続けることは大切だと思ってもらえるように、学校教育に再び意味を与える」観点から、読み書き能力、数学的な能力、自分の感情や感じたことを明確に伝える能力を育成している。また、子どもたちに教育を受ける権利、暴力を受けない権利、健康な生活を送る権利などについて教え、人権の観点からの支援活動を重視している。A 氏は「自分の権利を知ることが重要です。自尊心が向上します。彼らは自分のリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）の権利を知ります。どうやったら妊娠しないか、セックスのことなどです。麻薬をせず、彼らの学業期間が長くなります。」と述べ、セックスや避妊、男女の性の対等性や麻薬などについて遊びや作業などの活動を通して学ぶことで、学校にいる期間が長くなることに言及していた。また、家庭内の関係を改善するために、両親、特に母親に対しても栄養のある食事の作り方、女性の権利、子どもとのコミュニケーションの図り方、暴力的でないしつけの方法などを教えるプログラムを提供している。

そして、NGO②は、生活に必要な能力を開発し、社会的・心理的な障害を減らすことを基本にすべてのプログラムを構成している。貧しい人々は、情報の不足だけでなく、心理的な障害（恐怖、罪の意識、先入観、嫉妬など）を抱えていることがある。こういったものはメキシコの場合、文化的・宗教的な価値観から成り生じることが多い。そのためこの NGO では、健康、栄養、麻薬中毒、教科内容など学業達成に必要な知識だけでなく、NGO が開発したテキストを通して、心理的な障害を取り除き、自尊感情を高め、自己決定能力を養い、自分の考えを相手にはっきり伝える方法などについて教えている。C 氏は、こういった支援を行うことで「行動やふるまいの変化があります。そして人々が自分の人生や家族の人生、コミュニティにおいて変化の仲介役になります」と述べていた。また、両親に対してもコミュニケーション、性、価値観、自尊感情、自己決定などをテーマに教材開発を行い、「両親のための学校」を開催している。

また、NGO③④⑤は、正規のスタッフは 1 名から数名しかいない NGO で、NGO①②のように総合的なプログラムは組むことができないが、それぞれの方法で能力開発を行っている。まず、NGO③は若者がコミュニティにおいて生産活動に参加し、社会参加できるようにするために農業や環境教育などを行っている。またコンピューターや語学講習を開催し、能力強化を行っている。そして、NGO④は、職業訓練プログラムの提供とオープン・スクールの運営を行い、学業を継続できるようにするだけでなく、将来よりよい職に就けるように技術を身に付けることを目的に活動している。NGO⑤は奨学金の支給を通して、修道会が運営する学校に子どもたちを通わせ、将来貧困で困らないように支援している。例えば NGO④の E 氏は、参加者が職業訓練プログラムを受けることによって「彼らは成長と変化の方法を探ようになります。だから考え方も大きく変化します。」と述べ、「少女たちはここに来た時は恥ずかしそうで、控えめで、黙っていて、あんまり他の人と話ませんでした。でも、後になると髪型や服が流行のものになったり、話したりするようになり、とても変化したように見えます。」と、参加者たちの変化について述べていた。

3. まとめと今後の研究の方向性

これらの NGO へのインタビューを通して得られたことは、1. メキシコにおける高校生の学校中退の家庭要因は、先述したメキシコのアンケート調査に見られる理由以外にもたくさんあること、2. それらは高校生になる以前の家庭環境や親子関係に起因していること、3. 家庭要因には社会的な要因が大きく影響を与えていること、4. 学校中退削減のためには、奨学金やカウンセリングの提供だけではなく、「権利」、「健康」、「栄養」、「リプロダクティブ・ヘルス」、「コミュニケーション」、「麻薬の予防」に関する知識が有効であること、同時に両親に対しても「権利」、「健康」、「栄養」の知識、「しつけ」や「コミュニケーション」の支援が必要であることの 4 点である。そのため、今後の課題として、まずは、今回の調査で見出された家庭要因の関連性を一つずつ考察すること、学校中退の削減のために、上述した知識を学校や地域で学ぶ方策について検討を深めることが挙げられる。

本調査研究の成果については、11 月末に行われる国際開発学会の第 24 回全国大会で口頭発表する予定である。そして、来年 3 月に行われる国際教育学会の春季大会においても、口頭発表する予定である。また、博士論文においては、序章または第 1 章に当たる部分に相当する内容としてまとめる予

定である。

参考文献

UNESCO (2012) *EFA Global Monitoring Report 2012 : Youth and Skills - Putting Education to Work*, UNESCO
Instituto Nacional para la Evaluación de la Educación (2013) *Panorama Educativo de México : Indicadores del Sistema Educativo Nacional – 2012 Educación Básica y Media Superior*, INEE
Secretaría de Educación Pública (2012) *Reporte de la Encuesta Nacional de Deserción en la Educación Media Superior*, SEP

かとう ゆりこ／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻

指導教員によるコメント

これまで、NGO が教育協力に果たす役割や発展途上国における学校中退について研究をしてきました。今回の調査研究では、学校中退の問題が深刻な中南米地域の中からメキシコを対象としてとりあげ、学校中退の要因として家庭（家庭環境や夫婦・親子関係など）に注目して調査を行っています。また、それとともに、NGO が子どもたちや家族に対していかなる支援を行い、中退問題に対処しようとしているのかも研究課題としています。これらはいずれも大きな研究課題ですが、わずか2週間の調査の中で、広範な資料収集、NGO へのインタビュー調査を実施し、メキシコの学校中退問題を分析し、解決の糸口を探るための基礎データが得られていると思います。国際開発・援助の領域においても、中南米の学校中退は大きな関心事であります。これまでの家庭への現金給付など、経済面の支援が中心でした。加藤さんの研究は、家庭の社会的側面（親子関係や夫婦関係など）に注目したものであり、従来のアプローチとは異なる支援方法の発見が期待できます。

（大学院人間文化創成科学研究科・浜野隆）

Family Factors of School Dropout in Mexico : From the Interviews of the NGOs

Yuriko Kato

The aims of this research are to investigate the details of family factors which cause the dropouts of the Mexican high-school students and learn the point of view to reduce it through the interviews to the NGOs' staffs. The main findings are as follows: there are a lot of the family factors like violence, precocious pregnancy, lack of communication, drugs and alcohol, lack of value etc. besides lack of money, and it is useful to make a comprehensive assistance program which include not only a scholarship and counseling, but also a knowledge acquisition for the rights of children, nutrition, reproductive health, communication, prevention of drugs, and an education to the parents.